

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

■ 観光と図書館 (2019年10月～12月)

機関誌『観光文化243号』(最新号)の特集テーマ「観光と図書館」に関連して、地域の観光振興・魅力づくりに図書館を活用していくためのあり方や最新事例を紹介します。



貴重書ギャラリー 1F

■ 古書から見る日本の宿泊事業
— ホテル & 旅館 — (2019年10月～12月)

特に外客誘致施策として各地に整備された国際観光ホテルを中心に、戦前から戦後にかけての時代(1930～1950年代)におけるわが国の宿泊事業の歴史を古書とともに紹介します。



ガーデンラウンジ 1F

■ 継続展示中!

- 「旅の図書館オススメの一冊」
- 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」
- 「JAPAN」コーナー

展示ウォール B1F

- 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」
 - 「観光と図書館」(2019年10～12月)
- 機関誌『観光文化243号』の特集に関連した当館蔵書を紹介しています。エントランスギャラリーと合わせてご覧ください。
- 旅の図書館40年のあゆみ

一度は訪ねたいライブラリー

このコーナーでは、当館が取材した図書館の中から、観光地の魅力づくりに寄与している各地の図書館や観光に役立つ図書館などを紹介します。

飛騨市図書館 岐阜県飛騨市古川町

錦鯉の泳ぐ“瀬戸川と白壁土蔵街”、そして“古川祭”で有名な飛騨市古川町。趣のある小さな飛騨古川駅に電車が停まるたびに、多くの外国人旅行者も降り立ちます。古い町並みや社寺、観光施設などの多くは徒歩圏内、飛騨市図書館も駅からほど近いところ、飛騨市役所本庁舎に隣接して建てています。近代的な外観に、外光を多く取り入れ明るく開放的な館内、机や椅子に使われている飛騨の家具が優しく落ち着いた雰囲気を醸し出しています。今年7月には10周年を迎えて、例年以上に企画展示やイベントが行われています。

飛騨市図書館が一躍注目されるようになったのは、飛騨古川の風景がモチーフとなり、アジア、ヨーロッパでも人気を博した新海誠監督のアニメ映画の公開された2016年夏のこと。今でも同館には国

内外から幅広い年代の旅行者が“聖地巡礼”に数多く訪れています。同館では、図書館利用者の過ごしやすさを第一としつつ、今回の想定外の来館者にも、一定のルールのもとで写真撮影を許可するといったきめ細かな配慮をされています。また趣向を凝らした映画の特設コーナーも設置されています。こうした対応はSNSなどを介して広く知られるところとなり、多くの方から好評を得ています。

取材に応じてくださった司書の方は、「聖地巡礼の来館者が書かれる『自由記述帳』は早くも14冊目。うちの図書館は“来る者拒まず”がモットー。旅行者の来館が市民の図書館への関心の高まりにつながれば。」と笑顔で語られました。飛騨市図書館は、明るく開放的、優しく落ち着いた雰囲気です。そして何よりも“あたたかさ”に満ちていました。



飛騨市図書館 外観



聖地巡礼者へのお願い
映画のシーンにも登場する閲覧コーナー

Information



「第18回たびとしょCafe」を開催します

テーマ 銀座のまちづくり
～変わり続けるまちのルール～

ゲストスピーカー 竹沢 えり子 氏
(全銀座会・(一社)銀座通連合会・
銀座街づくり会議 事務局長)

今回は、銀座のまちづくりに長年関わっていらっしゃる竹沢氏をお招きし、常に変化し魅力を発信し続けるまちづくりのあり方をご紹介します。当日の様子は改めてご報告します。

- 日時：2019年10月8日(火) 18:00～20:00
- 場所：(公財)日本交通公社 ライブラリーホール
- 定員：20名程度(先着順) ● 参加費：500円
- 申込方法：詳細・お申し込みは、日本交通公社のHPをご覧ください。

週末開館を試行(イベント実施)します!

現在、旅の図書館は平日限定で、皆様にご利用いただいておりますが、このたび下記日程で週末の開館を試行することにいたしました。読書の秋!勉強の秋!多くの皆様のご来館を、スタッフ一同、お待ちしております。

- 週末開館日
10月19日(土)、11月16日(土)、10時30分～17時00分

『観光文化243号』『旅行年報2019』刊行

「観光と図書館」を特集テーマとする機関誌『観光文化243号』を刊行しました。当財団の独自調査を加え、過去1年間の旅行市場や観光産業、観光地、観光政策の動向を取りまとめた『旅行年報2019』も10月上旬発刊予定です。ぜひ一読ください。



たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 9

2019年10月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

地方議会図書館等職員研修会で当館を見学

2019年8月19日(月)・20日(火)の両日、専門図書館協議会主催による「2019年度地方議会図書館等職員研修会」が都内で開催されました。これは、地方議会図書館相互の情報交換や交流と、職員のスキルアップに向けた情報提供や相互研鑽などを目的として毎年実施されているものです。地方分権の進展とともに、地方議会の政策立案期の監視機能の強化が叫ばれ、それを補佐する議会図書館・調査部門の果たすべき役割も一層重要になりつつあることを受け、今年度は「外部情報源で議会図書館の価値を高める」がテーマとなりました。

第1日目(8/19)は同志社大学条例Webアーカイブデータベースに関する講習や、サービスの周知・提供手法に関するグループワークが行われ、第2日目(8/20)の午前中は、全国の政策形成に役立つ専門図書館として当館を見学いただきました。当館では、ガイダンス及び館内の見学と合わせて、当財団の調査研究活動からわが国の旅行市場や観光政策、インバウンドなどの現状と最新動向をご紹介します。当日は事務局を含め23名の参加があり、当館としても全国の地方議会図書館等の職員の皆様と情報交換する貴重な機会をいただきました。



check/ 第17回たびとしょCafeを開催しました(7/24)

テーマ 「東北1,000kmをつなぐ“みちのく潮風トレイル”
～自然資源を生かした地域の活躍の場づくり～」

ゲストスピーカー 櫻庭佑輔氏(環境省東北地方環境事務所)

みちのく潮風トレイル開通の立役者の一人である櫻庭さんをお招きし、このトレイルの魅力、構想のきっかけ、検討過程、意義などをご紹介します。

青森、岩手、宮城、福島の前28市町村をつなぐ全長1,025kmのトレイルは、200回を超えるワークショップと現地調査の積み重ねにより作られました。この長い道をよその人が自分の足で歩いてじっくり旅することで、地域の価値に気づき地域の応援者になること、そうした人が増えることで、地域に住まう人たち自身も地域の価値に気づく機会を作ることが、みちのく潮風トレイルの大きな目的だとお話しいただきました。

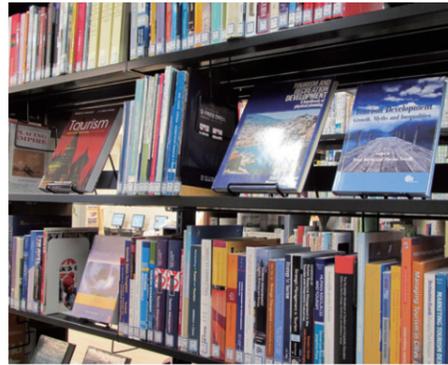
参加者からは、情報提供、ルート整備、安全管理、交通事業者との連携、ガイド育成、地域住民の意識醸成、インバウンドなど、様々な視点からの質問が飛び交い、非常に熱気に満ちた会となりました。



書架計画を見直し、開架書架を拡充しました!

本館も移転・リニューアルから3年が経過し、蔵書の増加とともに書架が次第に手狭になってきたため、このたび中長期的な観点から書架(蔵書)計画の見直しを行いました。これに合わせて、保存資料のデジタル化・紙資料の削減を進めるとともに、9月より開架書架を大幅に増やしました。

また、これまで2か所に分散していた観光統計・白書を移動書架に集約し、固定書架の一角に「洋書コーナー」を設置するなど、書架全体のレイアウトも一部見直し、より資料を探しやすくなりました。これを機会に、皆様の研究及び実務に、当館資料をより一層お役立てください。



洋書コーナー

旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します!



1 歩いて読みとく地域デザイン 普通のまちの見方・活かし方
山納洋著 株式会社学芸出版社 2019年6月 A5判 200頁

参加者自らがまちを観察し、面白さを発見しあう新しいまちあるき「Walkin' About」。その生みの親が、まちの成り立ちを読みとくための「まちのリテラシー」を紹介。名探偵気分であちを歩こう。

2 若者力
日本農業新聞取材班 編 筑波書房 2019年5月 A5判 232頁

若者を育む農山村の力、そして農山村を元気にする若者の力。全国各地の若者と地域の姿を、多様な角度から徹底して前向きに明るく描いたルポルタージュより、選りすぐりの記事や連載を掲載。

3 宮本常一 伝書鳩のように
宮本常一著 平凡社 2019年6月 B6変 224頁

「ただよい老人にあいたい」。日本各地を歩き、無名の人々の営みや知恵に光を当てた「野の学者」旅の巨人宮本常一の膨大な著作から選り抜かれた一編、一遍が実に味わい深い。

4 フィールドから読み解く観光文化学「体験」を「研究」にする16章
西川克之・岡本亮輔・奈良雅史 編著 ミネルヴァ書房 2019年5月 A5判 348頁

文化人類学、経営学、都市計画、社会学、文学、文化研究、宗教学といった多様な専門分野の研究者たちが、自らが「観光」を研究対象とするまでのエピソードを語る。自分の研究課題を見つけるヒントになる。

5 日本航空の破綻と再生(福盛アカデミー叢書1)
高巖・藤原達也・藤野真也・大塚祐一 著 ミネルヴァ書房 2019年5月 A5判 423頁

2010年の日本航空(JAL)の破綻から再生に至る8年の足跡を広範かつ克明な調査・分析から追う。「組織が変わるとはどのようなことか」を社会に誠実であらんとする福盛氏の経営哲学から浮かび上がらせる。

6 森林と文化(森林科学シリーズ12)
蛭原一平・齋藤暉生・生方史数 編 共立出版 2019年5月 A5判 306頁

森林科学の最新研究成果をまとめたシリーズの1冊。地域の人々が伝えてきた森林に対する民俗知が、森林保全、持続的な森林利用、森林利用(観光)を通じた地域づくりにいかに関わっているのかを考える。

7 まちを再生する公共デザイン
インフラ・景観・地域戦略をつなぐ思考と実践

山口敬太・福島秀哉・西村亮彦 編著 学芸出版社 2019年6月 A5判 240頁
都市や国土という公共世界を編集するインフラとは何か。人とインフラを繋ぎなおす空間デザインと、その実現に向けた最前線の方法論や実践事例から、新たな公共デザインの枠組みを導き出す。

8 電鉄は聖地をめざす 都市と鉄道の日本近代史
鈴木勇一郎 著 講談社 2019年5月 四六判 240頁

鉄道誘致と都市開発をめぐる日本近代都市形成史。「電鉄」と社寺を取り巻く怪しい人々に光を当てて、都市と鉄道という近代化の物語の陰に隠された歴史を明らかにする。

9 インバウンド・ビジネス戦略
早稲田インバウンド・ビジネス戦略研究会 編 日本経済新聞出版社 2019年6月 B6判444頁

国内外の事例を具体的に紹介しながら、インバウンド・ビジネス戦略の方向性を提示。読者が自社・自地域の特性を最大限に活かして持続的に利益を獲得できるよう、パラダイムシフトを支援する様々な示唆が盛り込まれている。

10 うつくしの街川越 小江戸成長物語
小野清二郎・松尾鉄城 監修 一色出版 2019年6月 B6判 398頁

祭、城、寺社から美術、舟運、まちづくりまで、川越を形づくる江戸から令和までの歴史を、研究者や商家など15人が語り伝える街の素顔。川越のアイデンティティに直に触れる一冊。